

元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール 報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 1回生 品川 和毅



今回、台湾に行ってきたたくさんの人に出会い、この中でたくさん感謝を受けました。日本に帰ってきてからも興奮がおさまりません。今から私は、台湾の人との出会いから学んだ一部を書きます。

初日、台風の影響により8時間関西空港で待ち続けようやく日本を旅たちました。台湾のホテルについた頃には日も暮れ夜遅くでしたが、台湾の学生さんたちは盛大に出迎えてくれました。向こうの学生さんたちはとても友好的ですぐに仲良くなりました。

お互い言葉が通じない中で、やり取りをして伝わったときの感動は今も忘れられません。

台湾の町で感心したこともあります。それはドライブマナーです。人口も多く、人や車が右往左往しているなかクラクションもならず、人に道を譲り、他人を待つ姿勢です。京都ではこのような人は少数派ですね(笑)台湾人の国民性を垣間見れました。

また、ショッキングなこともありました。日本人2人と台湾人5人と観光地をまわり、昼食をとるときにあるレストランに入りました。しかし、最高学年のメンバー一人のみ私たちとレストランに入り、その他のメンバー(2、3年生)は屋台のものを食べにいきました。不思議に思い聞いてみると、「レストランは値段が高いから食べられない。僕は君たちがいるから今日は特別食べているが、普段はここには入らない。」とっていました。そのレストランで食べたものは150元(日本円で約600円)の台湾風ラーメンでした。そういわれ、レストラン内の客層をみると確かに観光客や大人ばかりでした。そのとき、何ともいえないショックを受け、自分たちの恵まれた生活、裕福さを再認識しました。



また、夜遅くまで私たちのために毎日夜更かしをしてくれました。4、5時までいろいろな話をしたり遊びました。睡眠時間までけずり私たちために尽くしてくれ、たくさんの感動をくれた学生との別れは非常に良かったです。JAPAN DAY のとき、時間の経過はとても速かったです。今でも、向こうの学生さんたちと連絡を取り合っています。また、必ず台湾に遊びにくると言って日本にかえってきた約束を果たせる日が待ち遠しいです。



最後に提案があります。私はぜひ彼らに恩返しをしたいです。単刀直入にいうと日本での受け入れがしたいです。台湾の学生の金銭面、受け入れをするに至るまでには、たくさんの協力が必要なことは承知です。今回の研修が一期一会の出会いといえ、それまでですが、今回1年生で行かせていただいてまだチャンスがあるので、この場をお借りして、お願いいたします。毎年、順番に交換留学生として両校が受け入れる summer camp を作りたいたです。



元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール 報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 1回生 西川 綾香



台湾はアジアであり、日本とも近いことから、街並みも似ている、親しみやすい国でした。しかし、日本と台湾は全く別の国であり、言語も違えば文化も全く違います。その数ある違いの中でも目立った点は、交通面と、夜市という名前の通り夜に開かれる市場です。1つめの交通面について、台湾の道路を走っているのはバイクばかりでした。台湾の人にとってバイクは必需品であり、台湾の人は日本で言う自転車のように気軽に使える手段として乗っていて、逆に自転車を使っている人は少ないように感じました。そして交通面で驚いたことは、タクシー

料金についてです。平均的に比べると、日本より台湾のほうが安いようです。初乗り料金で2国を比べてみると、日本は730円であるのに対して、台湾(台北市内の場合)は70元(日本円で265.51円1元=3.792991円)です。このように、日本より台湾のほうがタクシー代が安かったので利用しやすいと感じました。そして印象に残った場所は、台湾の病院です。私たちが行った病院には、テレビ局がありました。そのテレビ局ではその病院で放送するためだけの番組を作っていました。実際に収録されたものは、病院内で放送され、病院へ訪れた患者さんがみていました。日本にはない珍しいものだったので、見られてよかったです。

台湾で過ごして一番よかったことは、人と関わることです。上でも述べたように、日本と台湾は言語も文化も全く違います。しかし、私たちは元培科技大学の学生さんたちと、かたことの英語やジェスチャーなどでコミュニケーションをはかりました。理解しあうのは難しかったけれど、私たちが街で中国語がわからず戸惑っていたら、台湾の学生さんが助けてくれたりと、とてもいい友だちをもつことができました。



この1週間はとても短く、とても内容の濃い1週間でした。台湾の人々はとても気さくで、台湾はとてもいいところでした。また、医療に更に関心があったので、この台湾サマースクールに参加することができてよかったです。

元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール 報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 2回生 小川 沙季

私は2014年国際交流サマースクールに参加した。サマースクールにおいて、参加する目的として海外を体験する、日本と台湾の医療や文化の違いを学ぶというものがあった。

初めての海外であって私は日本との勝手の違いに非常に驚いた。これを切実に感じたのはトイレである。日本ではどこでも機能的、清潔で衛生的なトイレが当たり前であるが、台湾はホテル、空港やレストランなどでも日本のような機能的、清潔で衛生的なトイレに及ばない所があった。また、現地の学生ボランティアの人と話す中で台湾では当たり前のことが日本ではとんでもないことであったりした。このことから、日本は非常に恵まれていること、世界には様々な文化や考え方があることを学んだ。



前述のように、サマースクールに参加する目的であった日本と台湾の医療の違いに関しては、病院によって差はあるが進んでいる病院の医療技術では日本より遅れている部分があるがさほど違いは無かった。また、台湾では治療だけでなく予防、特に生活習慣改善にも力を入れるようになってきたそうである。

今回のサマースクールで、海外にまで自分の視野を広げる非常に良い体験になった。また、これから将来チーム医療に携わる人間としてグループで一つの目的を達成するにはグループ、チーム内での協力関係、コミュニケーションの重要性を改めて学ぶことが出来た。

最後に学長先生をはじめとするサマースクールにおいてサポート下さった先生方、引率の石垣先生・富高先生、サマースクールメンバー、家族に心より感謝いたします。

元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール 報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 三回生 市川 実希

8月10日から8月16日の期間台湾の国際サマースクールに参加させていただきました。

●8月10日(日)



台風11号の影響により日本を発つ時間が13時10分から16時に変更になりましたが、無事出発できました。

(←左 空港で飛行機を待っています)

約2時間30分後台湾に到着しました。

台湾の空港には台湾の先生と学生が迎えに来てくださっていました。台湾で泊まるホテルに移動するバスの中では自己紹介などを行いました。私達が到着したのは予定時刻よりも遅い時間でした。しかし、ホテルに到着すると台湾の学生が全員で歌を歌って迎えてくれました。その日は、夕食を食べてベットに入りました。

●8月11日(月)

まず、中国語及び文化課程(一)を受けました。

中国語での自己紹介、台湾の郷土料理やフルーツを教えてくださいました。(→右 中国語及び文化課程)

昼食では、台湾料理が食べきれないほど出てきました。

とても美味しかったです。(→右下 昼食)

次に、新竹市政府を訪問しました。新竹市の市長は日本と台湾の交流を今後も続けていきたいとの言葉をいただきました。

その後、新竹国泰綜合医院进行訪問しました。病院内を案内していただきました。

最後に、大型ショッピングセンターで夕食、買い物をしました。

●8月12日(火)



台安医院进行訪問しました。

この病院では生活習慣を改善することで病気の予防や改善をするプログラムがありました。運動、食事の指導等が行われていました。病院内にそのプログラムを行うための場所があり、まるでジムのようでした。

(←左 台安医院)

次に、国立故宮博物院を訪れました。様々な美術品を見ることができました。



最後に、士林夜市に行きました。夜市の一部ではとても独特の匂いがしていました（臭豆腐臭）。

8月13日（水）

台日文化交流会では、それぞれの学校がある地域の紹介、台湾と日本の結婚式、お正月などの発表を行いました。

民族文化体験ではカンフーを体験しました。（→右 民族文化体験）

キャンパスツアーでは、自由にバスケ、バドミントン、卓球などの運動を行いました。

●8月14日（木）



猫村、黄金博物館、九份に行きました。

観光名所なのでとても人が多かったです。台湾のことをさらに知ることができました。

（←左 猫村）



●8月15日（金）

中国語及び文化課程（二）を受けました。中国語の歌や、テープでバッタ作成、竹を使った遊びを教わりました。

（→右上 バッタ）

歓送会では、それぞれの学校がダンスや発表などを行いました。

私達はゴールデンボンバーの女々しくてを踊りました。みんなでも盛り上がるのが出来ました。

（→右 ゴールデンボンバー）

この日の夜は遅くまで台湾の学生たちと話をしたりゲームをしたりして最後の夜を満喫しました。

●8月16日（土）

あっという間に日本に帰国する日になりました。



台湾の先生と学生が見送りに来てくださいました。

台湾の学生は日本語・英語ができるため、中国語で伝えられなかったら英語や日本語でジェスチャーを交えながら会話をしてくれました。些細な事によく気がついて、とても親切で優しい人たちばかりでした。

この台湾のサマースクールに参加してとても良かったと思います。

今回の経験をこれからなにかに活かしていきたいと思います。



元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール 報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 3回生 市川 萌希

迷ったらやってみる.



台湾・元培科技大学にお邪魔し、文化や言語・医療現場の見学を通して交流を深める国際交流サマースクール。日本という限られた状況から脱し、自分自身の視野をひろげる事を私自身のテーマとして今回の参加を希望しました。台湾のサマースクールは旅行ではなく、あくまでも私たち自身で計画・行動する必要があります。海外へは旅行でしか訪れたことがない私にとって未知の世界です。

海外渡航の良さは、その土地の雰囲気・匂い・人の活気を肌で感じられることです。台湾は短時間渡航が可能であり、日本からも多くの方が訪れる人気のある国です。多くの方が中心地・台北を訪れますが、今回は台北から少し離れた新竹市が目的地です。観光客が少ないため、現地の様子・人々の温かさが感じられました。

台湾で6日間過ごして感じたのは台湾の方々の優しさです。私たちにつきっきりで様々なことを教えてくれた元培科技大学の4人のホストさんには大変感謝しています。大学内では共に講義を受け、学外では私たちを先導し、行動を共にしてくれました。なかなか英語が通じにくかったため、彼らの存在なしでは苦労したと思います。そして、台湾の学生さんの社交的な姿に驚きました。日本の学生はやはり日本人ばかりで集まりたがります。対して台湾の学生さんは、すぐ「May I?」と話かけ、交流を深めようとしてくれます。学生さんだけでなく、大学の関係者の方も日本語での挨拶など大変温かい歓迎を示してくださいました。ホテルのそばにあるコンビニの店員さんと少し話をしましたが、なんとか懸命に伝えようという姿と笑顔が印象的でした。言葉の違い、という壁は厚いようでいて案外越えられるものなのかもしれません。



台湾での日々はあっという間でした。朝から講義や病院見学など予定がビッチリつまっており、基本9時頃ホテルへと帰ってきます。ホテルに帰ってからはフリータイムですが「今日楽しかったねえ…」などゆったり夜の時間を過ごす余裕はありません。出し物の演目が他校とかぶってしまったため、白紙の状態から演目を考え直す必要があったからです。しかも残された時間は3日。加えて、日本のお正月について紹介するスライド・原稿も用意する必要がありました。ホテルのロビ



一で会議を始めた当初、全員呆然とし、どんよりした雰囲気でしたらだらと会議が進んでいました。先生の「やるか迷ったらやってみる。やると決めたら全力でやれ」の一言で全員「やろう」という気持ちに切り替わりました。大人数である事を活かし、ダンスの演出・構成・振付指導する2人のパートリーダー、ダンスの間を埋める数人のパフォーマー、そして日本紹介担当に別れ、夜の時間を利用して準備を進めていきました。全員で一つの作品を作るので誰か一人でも力を抜けば全体がガタガタになってしまう。全員の努力が実り、日本紹介も送別会の出し物も、大成功で、見て

いる人にも楽しんでもらえました。

充実した毎日の中で、やはり最も興味をもったのは病院見学です。台湾の病院システムは、基本、日本の病院システムと同じです。見学途中、撮影機器やHISのパソコンの上にスナック菓子を発見しました。不思議に思っていると放射線技師の方が「ちゃんと機器が作動するようにお供え」と笑って教えてくださいました。台湾と日本の文化の違いかもしれません。また放射線技師一人一人に番号が割り振られていました。写真に番号を表示することで検像・画像評価の際に、この写真は誰が撮影したものか、わかるようにしているそうです。台湾内でも大きな病院・台安医院では職員食堂や病院食は野菜のみの献立で作られており、なんと病院内にジムやテレビのスタジオまで併設されていました。外国人の患者さんに対応するために、英語や日本語が話せる医用従事者が中心の部門も存在しました。しかし、受付や待合から撮影操作室や処置室が覗けてしまい、他の患者さんからの視線を考慮した日本の病院構造と比較すると、かなり大胆な病院内だな、という印象を持ちました。日本の病院システムを学ぶことももちろん重要です。しかし、普段の海外旅行で海外の病院見学をさせて頂ける機会は全くないと言って良いでしょう。比較しながら学べる事は理解を深める事にもつながります。本当に貴重な経験をさせて頂きました。



台湾サマースクールに参加したことで自分の殻が一つ破られました。破れた殻がどんな殻だったのか、言葉にはできません。海外へは何度も訪れていますが、こんな感覚を抱いたのは初めてです。新しい事にチャレンジすることは勇気がいります。チャレンジする・しないを含め、何が自分にとって正しい判断なのか、正しい選択をする事は決して簡単なことではありません。これから先、何度も判断をしなければならない状況に直面するでしょう。その状況下で、おそらく私は今回の経験を思い出すと思います。

迷ったら、やってみよう。やると決めたら全力であたってみよう。何事も経験する事は自分自身の宝物になるのだから。そう考えられるようになりました。



最後になりました。準備期間を含め、私たちの事を気にかけてくださった本学の先生方、事務員の方々、アドバイスをくれた昨年度サマースクールに参加した学生さん、準備期間を含め、現地で支え続けてくださった石垣先生・富高先生、皆様のご協力に大変感謝しております。ありがとうございました。



元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール 報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 3回生 今井 彩華

2014 Yuanpei University summer schoolに参加させて頂き大変貴重な経験をさせて頂きました。



私は国際交流をすることは初めてだったため、台湾に行く前は台湾の学生ボランティアの人達と仲良く出来るだろうか、コミュニケーションは取れるだろうかと不安でした。しかし実際に台湾を訪れ、学生の人達と会うと、とてもフレンドリーに接してくれたので不安というものはいくつも消え、楽しめました。まず台湾の学生さんと一緒に中国語の勉強をしました。私は一回生の時に中国語の授業を履修していたため簡単なあいさつや自分の姓名を中国語で話すことは出来るので

すが、それ以上のことは台湾に行く前は話せなかったです。

しかし台湾での中国語の授業で覚えた文法や単語をその他のカリキュラムで使うことができたので、少しは話せるようになったかなと思いました。台湾の学生さんは日本語を専攻しているため日本語が本当に上手でした。また台湾の学生さんは分からない日本語があったら「これはなんていうの?」とすごく積極的に聞いていたためすごく感心しました。やはり国際交流は自ら積極的に動いて自分が聞きたいこと、したいことなど伝えないと始まらないと感じました。その一つのツールとしてコミュニケーション(英語や中国語)ができると会話が盛り上がると思いました。私は全然英語が話せなかったことが今回の悔いです。英単語は簡単なものはでてくるが、文章にはならなかったためもっと勉強しないといけないなと改めて思うことができたのでよかったです。でも通じなくてもあきらめずにジェスチャーや他の単語を使って伝えようとして相手に通じた時はすごくうれしかったです。



次に新竹国泰綜合病院を見学させていただきました。私は将来海外で働きたいという夢があるため他国の医療を見学できることはとても貴重な経験だなと思いこのサマースク-



ルに参加した一つの理由であったため非常に楽しみにしていました。実際に新竹国泰綜合病院を見学し感じたことは日本の医療と変わらないなどおもいました。また実際に放射線科の先生に読影のポイントを教えて頂き勉強になりました。台湾の医療を知ることができたことはこれからの自分にとって大きな糧となりました。

私が最も印象に残ったのは、最後に行われた歓送会です。歓送会では台湾の学生さんが台湾文化の歌やダンスを披露したり、日本の学生が日本の料理や日本の流行のダンスなどを披露します。私たちはあるダンスをしようとして話し合っ、台湾に行く前にそのダンスを練習していましたが、日本の他大学の人達とダンスがかぶってしまったため急遽ダンスを変更しました。ハプニングでした。そしてその夜に緊急のミーティングを行いました。全員でどうするか話していると引率してくださった先生が「社会人になったらこういう状況（予定していたことがなくなる）がよくある。その残り少ない時間でやり遂げなければならない。その状況が今だからいい経験だ。そこで乗り越えるか越えないかは自分達次第だ。」というアドバイスをくださり、発表まで残り3日でしたが残り3日しかないではなく3日もあるとポジティブに考えてやろうと話し合い、違うダンスの練習を始めました。



信がついて帰れたなと思いました。

この練習期間内でお互いに意見を言い合い、全員がパフォーマンスをよくしようという意識が前に練習していたダンスよりもあるなと感じました。そして本番！本番では日本の他大学の人達や台湾の人達がとても盛り上がってくれました。また終わった後も「すごかったよ」と言ってくれたのでとても嬉しかったです。ダンスを終えた後全員が達成感に満ちた笑顔でした。この経験を通して台湾に行く前と行った後では自



元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール 報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 3回生 兼先 勇佑

夏季休暇中に参加した、台湾サマースクールの報告を行う。
食べ物・観光・医療の3点について記述していく。

I. 食べ物



台湾の食べ物は、メインからデザートまで様々な種類が存在し、全体的に味が薄くて高カロリーであると感じた。

私の一番のお気に入り、写真のカキ氷である。これは、暖かくて、餅と小豆が入っている。日本でいう、冷やしぜんざいともいえる。さらに、ドラゴンフルーツも不思議な感覚の果物であった。

また、出国前不安視していた屋台についても、味・腹痛ともに問題はなかった。やはり、本場の小籠包は格別であったし、現地でしか食べれないものも頂いた。しかし、臭豆腐だけは私の体には受け付けなかった。

II. 観光

台湾の観光地は、様々あるがやはり九份が有名ではないだろうか。宮崎駿監督の「千と千尋の神隠し」のモデルとなった場所である。とても懐かしい町並みであり、田舎大好きな私には、趣のある風情であった。

九份は、市場が軒を連ねており食べ物・お土産など販売してあった。有名な観光地であるがゆえに、周りは日本語ペラペラの日本人しかいなかったのは、土産話のひとつとなった。

今回の研修では、猫村、黄金博物館さらに国立博物館を巡った。どの観光地も魅力ある場所で、私を楽しませてくれた。





Ⅲ. 医療

将来、私たちに身近になるであろう医療のことについて述べる。今回は、新竹国泰総合病院と台安医院を訪問させていただいた。

前者の施設は、街中にあり、日本といたって変わらない施設であった。院内は、必要最低限の設備はそろっていた。しかし、治療および検査が困難な場合には、レベルが上の病院を紹介する中規模病院といったところであった。

後者の施設は、日常の食生活を改善することで、病気を改善・抑える方針の病院であった。院内は、スポーツジム・スタジオ・ベーカリー様々な施設が充実していた。院内食を頂いたが、低カロリーでお腹が満たされたので、食生活の改善に共感を抱いた。

2つの施設を訪問して、医療のレベルは日本と変わらないと感じた。数年後、数十年後、日本は、諸外国に必ず抜かされると感じたことも、収穫である。

Ⅳ. まとめ

今回のサマースクールでは、将来必ず生きるであろうことを学ぶことができた。言葉の通じない人との付き合い方、危機に陥ったときのチーム力など、挙げればキリがないが、大変貴重な経験をしたと感じている。将来は、国内に留まるだけでなく世界に羽ばたきたい。いや、羽ばたくんだという気持ちで残りの学生生活を過ごしていきたい。

元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール 報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 3回生 熊野 雄斗

出発日



台湾へ行く大きな気持ちとは裏腹に、台風で空港に足止めされた初日の僕たち。。。一人ひとりが大きな思いや不安を持ちながら飛行機の出発を待ちわびていた。

僕は海外に憧れを抱いていた。世界は広いのに日本という小さな国で20年間も生きていた僕は他の国で生まれ育った人が、どのような考えを持ち、生きていたのかが知りたくなった。僕はそんなことを考えながら、14人で飛行機の到着を待った。

無事に飛行機が飛び、異国の台湾へ。

台湾に到着すると多くの元培科技大学の学生さんが歓迎してくださった。この時、僕の気持ちは不安な気持ちでいっぱいだった。そして、この日は疲れたのか、ホテルにつくとすぐに眠りについた。

この写真は月曜日のお昼だ。さすがにこの人数で食べることのできる量ではない食べ物が出てきた。日本では食べ残しがもったいないと考えられているが、それが常識ではない。自分の視野の狭さを実感した。しかし、これで僕はこれから未知の事をたくさん知ることができると期待が高まった1日だった。

月曜日



火曜日



この日はたくさん行動した。

午前中に病院へ行き、台湾の医療を見学した。日本の医療の方が最先端であると感じた。その理由としては医療機器の普及が日本の医療機器より劣っているためだ。しかし、台湾にある医療機器でできる、最高の医療とチーム医療を感じることができた。

午後は国立故宮博物館、台湾で有名な夜市に行った。ここでも僕の想像を超えていた。町が毎日、祭りかのようににぎわいだったからだ。いろんなご飯を食べ、日本人がおいしいと感じる食べ物や、台湾人がおいしいと感じる食べ物の違いを感じることができた。

水曜日



太極拳。これはとてつもなく疲れた。

たった8個の型だけなのに4、5時間かけて、先生に教わった。そしてこの太極拳は8個の動作を丁寧にきちんとすると15分くらいかかる。大変なことだが、毎日この太極拳を繰り返すことによって、健康が保たれるのだ。実際にあちこちの筋肉を使うため、本当につかれ、翌日には筋肉痛になった。

さらに、この太極拳の後に晩御飯を食べ、みんなでバドミントンや、バスケ、卓球などのスポーツをしたため、くたくたな1日だった。

木曜日



猫村、黄金博物館、千と千尋の神隠しで有名な九份へ。太極拳した翌日にこのしんどさ。と思いきや楽しすぎて、しんどさも忘れるくらいの充実した1日だった。たくさんの元培科技大学の学生さんとも仲良くなり、言語が異なっても、お互いが分かり合うまで話したり、笑いあい、共に勉強になった。言葉が通じていなくても相手の表情や、仕草、そのようなことから相手の意思をくみ取り、理解しあうことで、コミュニケーションをとりおしゃべりをした。

金曜日

1番楽しかった日。しかし、寂しくもなる1日でもあった。

1週間、他大学の学生さんと台湾にくる時期が遅かったのもあり、仲良くなる時間が短かった。しかし、最後のパーティーでみんなが1つになれた。日本人も、台湾人も。やはり世界共通で1番最高なものは『笑顔』だ。1人が笑えば周りの人も楽しくなり、自然と笑顔に。歌を歌ったり、ダンスをしたり、日本の食べ物、台湾の食べ物を披露したり、みんながみんな楽しんだ。



ダンスといえば、僕たちは少しアクシデントが起きた。他大学の学生さんとダンスの曲がかぶってしまったことだ。僕たちが悩んでいるときに勇気を与えてくださったのが、今回のサマースクールに来てくださった、石垣先生と富高先生だ。先生方は僕たちの背中を押してくださいました。悩んで、悩んで、困って、困って、自信のない僕たちの背中を押し、僕たちに大きな自信を与えてくれた。子供な僕たちは、先生方に自信をもらったおかげで最高の仕上がりにした。僕たちは先生の存在が心のどこかで大きいことを認識し、頼っていた。



パーティーが終わるにつれてパーティーに参加している人は涙を流した。たった1週間、2週間の出来事なのに別れ惜しくなった。涙を流し、抱きしめあった。再び会うこと誓った。

パーティーが終わっても台湾に帰るわけではない。翌日に飛行機が飛び立つため、みんなで夜を明かした。何を話したか、覚えていない。しかし、話すことを止めず、朝までみんなで話し、笑った。別れを惜しむのではなく、今、僕たちが残された時間を1秒1秒大切に語り合った。



土曜日



元培科技大学の学生さんが最後は見送り。
たくさんの思い出を持ち、最後は笑顔で
お別れを。またどこかで会えることを
心のどこかに秘めて。こうして僕らのたった
5日間のサマースクールが終了し、台湾を
あとにした。



今回のサマースクールを通じて、先生の指導の下、京都医療科学大学の同期、後輩とのチームワークが高まった。台湾に行く前は不安の気持ちもあったが、その不安はいつしかなくなっていた。見るもの、食べるもの、感じたこと、すべてが新鮮で僕の常識を超えていました。日本での『当たり前』が世界にとってはまったく通用しない『当たり前』で、それは、今まで1つの世界で生きてきた僕にとって、他の世界を見ることができ、大きな視野を身につけることができる発見となった。

コミュニケーションについても新しいことが分かった。台湾に行く前まではコミュニケーションは『言語』だと思っていたが、それは全くの別物で、『言語』はコミュニケーションをするためのツールでしかなく、本来のコミュニケーションは相手の表情や、行動、動作で自分の意思を伝えるものなんだと感じた。人生において大きな経験をできた今年の夏は、宝物だ。この経験を生かし、もっと視野を広く持ち、熊野雄斗を育てていきたい。

元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール 報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 3回生 村上 智裕

今回のサマースクールは、僕にとっては去年に引き続いてのサマースクールであったため、二度目となります。二度目の台湾での研修に参加するため、多くの人から二度も国際交流に参加する理由を聞かれました。しかし、その時点では自分でもその理由を見出すことができませんでした。また、今になってもその核となる理由はわかりません。そういった中で、僕の国際交流に向けた準備が始まっていきました。二度目ということでリーダーに任命され、みんなの統率をとる立場となり、台湾研修に行くことにまだ踏ん切りがついていなかった僕にとっては、自分を奮起させてもらえた一つの大きな要因になりました。今回のサマースクールは、去年と違い、人数が5名から12名に増え、1学年だけでなく1回生から3回生の3学年の学生からなるチームでありました。そのため、同じ学年でも普段の学生生活の中で頻りにしゃべる関係ではない人もおり、他の学年となれば、なおさら、初めて会う人もいたため、身内からまずはコミュニケーションをとっていかなければならないという状況でありました。そのため、同学年しかいなかった去年とは異なったスタートに少し不安を感じました。しかし、最初の台湾サマースクールのオリエンテーション後に行われた会議で、みんながしっかりと意見を言い合い、サマースクールに向けての計画がどんどんと決まっていく様子を見て、自分が考えていた不安は浅はかな考えであったと訂正してもらいました。今回のメンバーはリーダーとして何もすることがないのではないか？と感じさせるメンバーだと思いました。台湾サマースクールまで



にそういった会議を数回行ったり、語学スキルアップのため藤枝先生の英会話講座、鄭先生の中国語講座などの授業を受けさせてもらいました。また、台湾サマースクールの文化交流の場で発表するスライドの資料集めとしてみんなで京都散策にも行きました。その中で、メンバー間の繋がり、台湾への想いなどはより強いものになったと思います。台湾サマースクールの準備もしっかりでき、いよいよ台湾に飛び立つ8月10日になりました。しかし、その日は日本に台風が上陸しフライトの時間が三時間以上遅れて、正直体に堪えました。

去年のサマースクールも、帰国時、台風が台湾に直撃するという経験しているだけに本当についていないと感じていました。ただ、その日のうちに無事、僕たちが滞在するホテルに到着することができたので本当に良かったです。台湾の空港に着いたときには、僕たちが到着が遅れたにも関わらず、元培科技大学の学生がずっと待っていてくれました。さらに去年のサマースクールでお世話になった人（去年は学生）も次の日が仕事であるにも関わらず待っていてくれて、一年ぶりに会えて本当にうれしかったです。最初からハプニングがありましたが、なんとかサマースクール初日を迎え、大学で歓迎会、終了後は中国語講座や病院

見学など、元培科技大学の学生が考えてくれたプログラムに従って僕たちはサマースクールを楽しんでいきました。去年よりも日数が少ないため、一日一日のスケジュールが本当に過密であったので、休む暇がなかなかありませんでした。その中でも一番体に堪えたのは、最終日に予定されていたパーティにおいて僕たちが披露するはずであった余興(踊り)が、このサマースクールに僕たちと一緒に参加されていた他大学の余興とかぶっていたため、僕たちの余興を一から考え直さなければならないことでした。去年と同じ余興にしようという話も挙がったのですが、僕たちの引率をされていた石垣先生のご指摘で、本当の白紙の状態からやろうということになりました。最終日のパーティまであと3日という時期での苦渋の決断でしたが、石垣先生は、「あと3日しかないんじゃないなくて、3日間もあると考えよう」とおっしゃった言葉を聞いて、僕も、またみんなも勇気づけられたと思います。そこから3日間、みんなと試行錯誤をしながら考えていきました。そんな中で追い打ちをかける様に、文化交流の場で京都を紹介するスライドだけでなく、日本のお正月について実演を含めて紹介してほしいと言われた時は、本当にこの場から逃げ出したくなりました。でも、本当に頼りになるメンバーが色々考えを出してくれて、また他大学の学生さんにもこまや羽子板などの道具を貸してもらいました。本番では、元培科技大学の学生さんにも手伝ってもらい、本当にみんなのおかげで急遽やることになった日本のお正月紹介をやりきることができました。最終日の余興も、自分たちが元々考えていた余興よりもはるかにクオリティーの高い余興ができました。僕たちの余興の時は、元培科技大学の学生さんや他大学の学生さんも一緒に踊ってもらい、他大学の余興の時には、僕たちも一緒に踊らせてもらうなど、最後日のパーティでみんながよりいっそう



仲良くなれました。この一週間のサマースクールは、本当にしんどかったです。ただその反面、得るものが多く楽しかったです。言葉の違う人同士でのコミュニケーションはなかなかうまくいかなかったけど、それでもお互いが必死に理解しようと頑張って通じ合った時の喜び。急な変更にもお互いが助け合い、信頼し合って、最後までやりきった達成感。しんどい思いをしたからこそ、よりこの一週間を楽しむことができたと思えます。リーダーとしては、みんなに助けてもらうばかりであったので、本当にこのメンバーでよかったと思えました。また、このサマースクールのためにご尽力いただいた先生方、事務の方々、関係者の方々に感謝いたします。



このような機会をあたえていただいたことは本当にうれしかったです。最初の気持ちが自分の納得のいく考えではなくても、やると決めたことを最後までやりきれば、よいものを得られるということを経験できました。これからの学生生活に今回の経験を活かしていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール

報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 3回生 山本 安澄

私達、京都医療科学大学の1年生2名・2年生1名・3年生9人と石垣先生・富高先生の計14名は、8月10日から16日までの1週間、元培科技大学へ国際交流サマースクールに行きました。このサマースクールを通して元培科技大学の生徒達とたくさん交流し、様々なことを学ぶことができました。それに加えて私達京都医療科学大学の生徒の学年を超えた友情も築くことができました。以下より、国際交流サマースクールの1週間で撮った写真の中から6枚を選んで、そのときの様子をお伝えしたいと思います。



台湾の日差しは強いと言うことを聞いていたので、外出の際はサングラスを着用しました。大勢で海外に行き、サングラスをかけるということが今までなかったので、テンションが上がって写真を撮りまくりました。台湾の学生ボランティアの子達が、写真を撮りまくっている私達を不思議そうな顔をして見ていました。

元培科技大学では、太極拳を教えてもらいました。私達は筋肉痛になる位必死に太極拳をしました。右の写真は富高先生が太極拳をしているところを撮影した写真です。みんなで笑いながら太極拳をしてとても楽しかったし、大変貴重な経験をさせて頂いて本当に良かったなと思いました。





右の写真は私たちのホテルの部屋に台湾の学生を招いて、みんなで日本の”みのりかリズム4”というゲームをした様子を写したものです。罰ゲームには、日本の罰ゲームの代名詞ともいえる尻字をしました。日本のゲームや罰ゲームが台湾の学生に通用するか不安でしたが、楽しんでくれて良かったです。私達にとっても、経験になりました。

私達はこのサマースクールに向けて、出し物として“会いたかった”のダンスを練習していたのですが、他大学の出し物とみごとに被ってしまい、急遽台湾で“女々しくて”のダンスを練習し、披露しました。急な変更でしたが、限られた時間の中で必死に練習して、満足のいくパフォーマンスができました。



左の写真は国際交流サマースクールに参加した京都医療科学大学の学生と、私達の担当をしてくれた元培科技大学の学生の集合写真です。最初はお互い緊張していて溝があったけれど、すぐに仲良くなることができました。話す言葉と住む地域が違うだけで、話せばすぐに分かり合えることがわかりました。



右の写真は最終日に他大学の子と、元培科技大学の子と撮影した写真です。この国際交流サマースクールでは、元培科技大学の学生はもちろんのこと、他大学の学生とも交流をすることができました。この一週間では様々な体験を通し、色々なことを学ぶことができました。何よりもすごく楽しかったです。この経験を活かし、立派な医療従事者になりたいです。



元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール 報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 3回生 吉田 隆人

今回の台湾サマースクール2014は学生12名および教員2名で参加し、8/10~8/16の7日間、元培医事科技大学へ行かせていただきました。私は今回で2度目の参加です。今回は昨年よりも参加日数が短かったため、中国語講座や台湾文化講座が少なく、病院見学および観光が中心のスケジュールでした。



今回のサマースクールは、前回のサマースクールでできた台湾の友人との友人関係を固くすると共に、新たな友人を増やす事を主目的とし、台湾の医療事情を知る事、台湾の文化を知る事などを目的として参加しました。

昨年知り合った台湾の友人はすでに大学を卒業し、社会人となっていました。私たちに会うために空港や宿泊先のホテルにやって来てくれました。ホテルでは、夜中まで就職や仕事の話、お互いの日々の生活の事、他にも様々な話をする事が出来ました。

前回同様、今回も病院見学に行かせていただきました。今回は、前回と違い日本で病院実習を経験していたので、日本と台湾の病院の違いがよくわかりました。今回見学させて頂いた台湾の病院には、ジムや、病院が情報発信するためのテレビスタジオなどがありました。また、綺麗な中庭など外観にこだわっているなど、日本の病院よりも診療以外の点にも力を入れているように感じました。

日本は台湾よりも様々な点で恵まれた国であると感じました。特に金銭面、衛生面では大きな違いを感じました。日本の技術で台湾を変えることができる点が多くあると感じました。また、日本の技術を台湾に持っていき、台湾の技術を日本に持ってくる、そのような事が将来できるように一生懸命生きていこうと思いました。

とても収穫の多い研修でした。台湾サマースクールに参加させていただき、ありがとうございました。



元培科技大学(台湾)国際交流サマースクール 報告書

2014 Yuanpei University Summer School for Chinese Learning and Healthcare
Industry Site Visit. Special program for Kyoto College of Medical Science

医療科学部 放射線技術学科 3回生 吉本 理恵



サマースクールでの一番の不安としては、外国語のコミュニケーションが挙げられる。特に、私は中国語の授業を受けていなかったため、非常に不安であった。しかし、一日目に中国語の授業が設けられており、配られたプリントを見ながら中国語の自己紹介を学ぶといったもので、安心して受けることができた。また、この授業で私たちFグループをサポートしてくれる台湾学生と交流することができた

台湾では二つの病院訪問をした。

最初に訪問した病院では、普段入ることができない PACS などの情報処理に関わる機械室を見学した。機械の温度調整のため、冷房は 20 度近くに設定されており、非常に寒く感じた。また、「機械の神様」という概念が台湾にはあり、お菓子をお供えしていたことが、日本とは異なった面白い文化だと感じた。

次に訪問した病院では、健康促進のためのフィットネスクラブを併設していた。これは、病気を治療するだけでなく、病気を予防することにも重点を置いた最新の施設ということである。このような施設の存在は台湾に来て初めて知ったが、帰国して調べてみると、日本にも幾つか存在することに驚いた。



日本を紹介する交流会では、私たちの学校が在る京都と日本の正月の遊びを紹介した。簡単な日本語と英語を用いて、それに中国語の翻訳も加わった発表により、台湾の学生にもわかりやすいよう工夫した。

また、台湾と日本の違いをお芝居などを交えて楽しく発表した。私たちは日本のお正月を担当し、羽根つきや福笑いを実演した。日本人と言えども、羽根つきや福笑いは数回ばかり体験したことがあるだけで、ルールなどは曖昧になっていた。日本の伝統的な遊びが徐々に廃れていっていることを改めて感じた。

また、外国人に日本の文化を紹介するにあたり、日本人自身がそれを熟知していないと、文化を伝えることはできないことを再確認した。

これは一日目の昼食の写真である。最初に用意されていた三皿に加え、計十皿近い料理が出された。台湾では沢山の料理を出すと喜ばれるため、初日は豪勢な料理でもてなしを受けた。日本料理と近い味付けの料理や、日本にはない果物など様々で、とても美味しくいただいた。中には、豚を丸々使った料理などもあって驚いた。



二日目からはバイキング形式だったが、スイカと龍眼と呼ばれる果物がデザートであることは変わらなかった。龍眼は中に黒い大きな種が入っており、味はライチに似ていた。最初は少し苦手だったものの、食べていくうちに美味しく感じられた。



台湾では太極拳の授業があり、私たちもそれを体験することができた。太極拳は朝公園などで健康促進のために行う人が多く、日本でいうラジオ体操に似たものだと感じた。ただ、ラジオ体操と異なる点は、しっかりとすると大変筋肉が疲労することである。現に、翌日筋肉痛になる人は多かった。

また、太極拳はカンフー映画に取り上げられることが多く、今回習った太極拳の型を実際に映画の中でも見たことがあるものもあった。映画のワンシーンを思い浮かべながら太極拳をやると、楽しむことができると思う。

こちらの写真は九份での写真である。日本人にとっては、宮崎駿監督の映画「千と千尋の神隠し」のモデルとなった場所でもおなじみで、夕暮れになり灯りが灯ると非常に趣深く感じられる。残念ながら、この有名な階段を通り過ぎてしまったが、沢山の様々なお店が立ち並び、雰囲気だけでも十分味わえた。

また、日本の林檎飴に似た食べ物が売っていたが、これは水飴をラップに包んだものだった。ラップに小さな穴をあけ、そこから水飴を吸い出すというのだが、少しテクニックが必要だった。



最終日の JAPAN DAY では、私たちは日本で人気のある歌でのダンスを披露した。台湾に出発する前に、振付やダンスを完成させていたが、他の発表と同じ歌だったため、急遽変更となった。練習時間は少なく、ホテルに戻ってからの時間に限られたが、一部はダンス、二部はバルーンアートを中心に精一杯努力できたと思う。ダンスの他にも、日本のお好み焼きやそうめんなどの料理や、日本を紹介するスライド発表もあり、非常に楽しめた。

一週間という短い期間であったが、台湾の学生と交流できる濃い時間を過ごせた。また、反省点なども多くあり、自分自身を成長させることができる良い経験になったと思う。